

ロシア語学習者における 映画を題材としたリスニングについて

山田 徹也

要旨

2024年度から立教大学のロシア語カリキュラムが改訂され、リスニングを重視した「ロシア語演習3」が新設された。この授業では映画を教材として用い、ナチュラルなロシア語の「聞く力」を向上させることを目的とし、聞き取った単語を記入してもらう形式で授業を行っている。その結果、前置詞の聞き取りや語末の脱落、ロシア語特有の母音や軟音記号の弱化など、発音規則の複雑さに起因する誤答が多かった。また文法知識の定着が不十分なためにミスを生むケースも目立った。一方で、文法の規則を正確に理解していれば、こうしたミスを回避できた可能性もある。本報告では本学におけるロシア語学習者の聴解において注意すべき点とその対策について述べた。

キーワード：ロシア語、リスニング、映画、発音

はじめに

2024年度より本学の言語Bで新カリキュラムがスタートした。この新カリキュラムでは必修、自由科目すべての科目が一新され、ロシア語の科目内容も一新された。

旧カリキュラム下でのロシア語科目は、他大学でもよく見かける通年を意識したオーソドックスな構成をしており、学生たちは必修科目でロシア語を1年間学習後、自由科目として春秋双方の学期に行われていた日本人講師による読解の授業と文法の授業、そしてロシア人ネイティブ教師による会話の授業を履修可能であった。

しかし2024年度から始動した新カリキュラムでは様々な学生のニーズに応えられるように自由科目の構成が変更された。大きな変更点としては秋学期に1年次から履修可能なロシア語総合1、2が新しく開講され、1年次の秋学期からロシア語学習により集中できる環境が整えられた。また第三外国語としてロシア語を2年次以降に学びたい学生向けの入門ロシア語も開講されることになった。

これらの授業と同様に、ロシア語演習3は、これまでの自由科目にはなかった「聞く力」を重視したオンライン形式の授業であり、特に映画やアニメの聞き取りを中心としている。

そこで本報告では、現時点でのこの授業において本学のロシア語学習者がロシア語を聞き取る際の間違いとその傾向について述べていく。

映画とその選択基準について

この科目で取り扱う映画は以下の4本とした。

Крокодил Гена / ワニのゲーナ (1969)

Кавказская пленница, или Новые приключения Шурика /

コーカサスの女虜、もしくはシューリクの新たな冒険 (1967)

Кин дза дза / 不思議惑星キン・ザ・ザ (1986)

Le Concert / オーケストラ！ (2009)

授業で使用する映画の選択の際にはロシア語教育研究会編『授業づくりのハンドブック ロシア語』(2008)、佐藤千登勢『映画に学ぶロシア語: 台詞のある風景』(2009)、またロシアで出版されたヴィクトロフ・A・V、ヴィクトロヴァ・L・A『「外国語としてのロシア語」授業での好きなソビエト映画(第二、第三検定レベル)』(2009)などを参考にした。

まず『ワニのゲーナ』は人形アニメ、チェブラーシカ・シリーズの第1話にあたる。こども向けの作品であり、内容把握も容易、さらにロシア語も平易でゆっくりと発話されているため1番最初に聞き取りをする対象とした。

次に取り上げたコメディ映画『コーカサスの女虜』はロシア人の主人公がコーカサス地方に民俗学調査を行った際に巻き込まれたドタバタ劇である。コーカサス地方は文化的にはジョージアに近く、ヨーロッパ的なステレオタイプのロシアとは異なる姿をうかがい知ることが可能であり、現代ロシアも含め、ソ連時代からの多民族政策などにも触れることができた。

『コーカサスの女虜』の次の『不思議惑星キン・ザ・ザ』はSF作品であり、ロシア人の風習などが直接的に描写されているわけではない。だがソ連時代のSF作品はしばしば体制を間接的に批判する隠れ蓑としても用いられてきた。ソ連の一般大衆である主人公たちは事故で砂漠の惑星プリュクに飛ばされ、そこから地球への帰還しようとするものの、現地の利己的で強欲なパッツ人たちに悩まされる。このパッツ人の強欲さや階級主義は一見資本主義への批判にも見えるが、当時の腐敗したソ連政権への批判とも見てとれる作品である。

これらの3作品はすべてソ連崩壊前の作品であり、現代ロシアを反映しているわけではない。しかしソ連崩壊前の映画作品の台詞は、現実的であることよりも標準的なロシア語であることが優先されることも多く、田舎で生まれ育ったはずの人物が都市部と同様の標準語を話すという違和感を覚えるものの、全体的に聞き取りが容易な作品が多い。

一方で現代ロシアの映画作品ではそのようなことはなく、聞き取り難易度も高い。

ソ連時代という古い映画作品は現代のロシアを見ることができないというデメリットはあるが、CEFRのA2レベルを対象とする演習3では登場人物たちのロシア語がほぼナチュラルなスピード、発音である聴解対象として『オーケストラ!』のみ取り上げることにした。

『オーケストラ!』は仏映画ではあるものの、主人公アンドレイはボリショイ劇場の元指揮者であり、ロシア語で会話が進むシーンも多く、ソ連崩壊後のロシアの日常についても窺い知ることができる。もちろん現代ロシアの日常が垣間見られる露映画は存在するが、ほとんどは高価なDVDのみでの販売であり、学生がいざ再度視聴しようとしてもハードルが高い。その点で『オーケストラ!』はAmazon Prime Videoなどのプラットフォームで視聴可能であり、学生たちは授業内で見ることはできなかった部分を自分で視聴、あるいは復習することができる。

他の3作品も同様に授業外で視聴可能である。映画会社はソ連時代の数多くの映画をYouTube上において公開しており、『コーカサスの女虜』のように日本語字幕さえ備えている作品も存在する。英語字幕になるが『ワニのゲーナ』、『不思議惑星キン・ザ・ザ』も当然視聴可能であり、授業外での復習しやすさも選択の際に考慮した。

授業概要

ロシアで出版されている学習書の場合、聴解は内容把握、言い換えなどが多い。それ以外にも単語の語尾のみ変化、あるいは文章の一部分をそのまま聞き取らせる等の形式で行われている場合もある。

本授業では一部の台詞を聞き取っていく形式で授業を行い、以下のように聞き取りしてほしい箇所を単語ひとつにつき、空欄をひとつつづつしたプリントを作成し、そこに聞き取った結果を書き込んでもらい、授業終了後にCanvasLMS経由で提出させている。

聞き取り対象となる部分の単語は、必修授業で頻繁に登場した単語は明示せず、それ以外の単語のみ不定形や主格などの形で提示し、授業内で該当の音声を3回聞いてもらったあとで適切な形を記入させている。

配布プリント例 (一部)

<p>男性: () () () (зверь:). 「僕はこの獣が気に入ったよ」</p> <p>(), ты знаешь, похож, так сказать,</p> <p>на (бракованная:) (игрушка:). 「彼は、なんていうか、壊れたおもちゃに似ている」</p> <p style="text-align: right;">『ワニのゲーナ』より</p>

作品の全シーンを聞き取る方が学習面では良いかもしれないが、その場合、学生の集中力が持たなくなったり、BGMやSEによって台詞が聞き取りづらくなったりする。そのため、聞き取り範囲は、基本的に全シーンを対象とせず、映画を理解するために重要なシーンや覚えておくと便利な口語表現が登場するシーンから選んだ。

実践結果

先に述べたように本学において聴解指導のみの授業は、行われてこなかった。だがそれは聞く力を軽視していたからではない。ロシア語は文字を覚えることに苦労はするものの、発音そのものはそこまで複雑ではなく、それよりも語形変化に時間を割く必要があるために発音や聴解の重要性を理解していても中々手が回らないという事情もあった。

今年度の新カリキュラムによって1年生は発音や聞く力にもある程度重点をおいた指導が行えている。しかし今年度演習3を履修している学生は旧カリキュラムに沿った指導を受けてきた。そのため映画に登場するナチュラルなロシア語を聞き取る能力が、読解や文法知識と比較すると弱いと感じた。

また教科書の音声やネイティブ教師のロシア語は授業用にあえて聞き取りやすくはっきりと発音し、さらに丁寧な表現で話している。そのため路上で耳にするようなナチュラルなロシア語とは発音、表現ともに異なっているため、授業当初は学生本人の力であれば正答できるような単語や文章でも逆に音声が悪影響を及ぼし、結局誤答してしまうというケースも予想よりも多く見受けられた。

最も多かった誤答の中には主格や不定形など語形変化をしないまま記入したというケースである。授業では聞き取った結果を記入する際、実際の発音と自分の耳でどのように聞こえたのかを比較するために空白のままにしないよう指示しているため、わからないものを変化させないまま解答したと考えられる。

それ以外の誤答としては神山(2023)が指摘する「日本人学習者が注意すべき発音」と同様の間違いが見られたが、日本人には区別が難しい子音л[l]とр[r]、あるいはб[b]とв[v]の混同についてはそこまで多くなかった。例えばбез[b'is]「…なしで」をвс[vis]と聞き取っていたり、девушка[d'evuška]「若い女性」をдебушка[d'ebuška]と解答したりする学生がいたが、さほど数は多くない。これはプリント内である程度単語の主格、不定形を提示してしまっているためだと考えられる。

子音の混同以外の誤答については、未だ資料としてはサンプル数不足から個人的な見解となってしまうが、現時点では大きくまとめると以下の5項目に分類することができる。

(1) 単語の区切りを認識しすぎによる前置詞とそれに続く語の間違い

英語はもちろんフランス語やドイツ語、スペイン語なども日本で生活していると触れる機会がある。しかしロシア語を日常生活で聞くことはまずなく、大半の学生にとってロシア語を聞く機会は授業くらいになってしまう。

そのため単語を主に文字で見て認識しているロシア語学習者は、語の境界を区切って認識していることが多い。特にロシア語の場合、前置詞とそれに続く語がひとかたまりになって発音される。そのため演習3ではありきたりな単語でも頭の中でひとかたまりになった音を前置詞とそれに続く語に分解することができず、苦勞している学生の姿が見られた。

中でも子音1文字の前置詞 **в**[f]、**к**[k]、**с**[s]、そして母音1文字の **о**[ɐ] は聞き取れないケースが多かった。例えば **к вам**[kvam] 「あなたのところへ」の **в** を聞き取れず、**кам**[kam] と聞き取った学生もいた。この場合、まったく意味がとれなくなってしまふ。

あるいは **к тётё**[k 'tjɔtʲ] 「おばさんのところへ」や **к проктору**[k prɐ'kɔru] 「検事のところへ」では前置詞が聞き取れず、**тётё**['tjɔtʲ]、**проктору**[prɐ'kɔru] と前置詞なしの与格として聞き取ってしまった学生もいた。

他に **сш** が連続する場合は硬い **ш** の長音として発音されるため前置詞の **с** は聞こえなくなる。特に初年度にこの特殊な発音について触れられることはない。そのため **с Шуриком**[s 'ʃurikəm] 「シューリク (※『コーカサスの女虜』の主人公名) と共に」の場合、**сш** が長音となることを知らない学生は、**с** があるとは思わず、前置詞なしの造格の **Шуриком**['ʃurikəm] 「シューリクによって」だと誤った理解をしてしまった。

(2) 語末の脱落

他に聞き取りの際に語末の子音が聞き取れない誤解答も目立っていた。いくつか例をあげると以下のように品詞や発音には関係なく、全体的に聞き取りミスが起きている。

正：этот['etət]	誤：эта['etə]
正：идём[ɪ' dʲɐm]	誤：идё[ɪ' dʲɐ]
正：каком[ka' kom]	誤：како[ka' ko]
正：районов[ra' jonəf]	誤：района[ra' jonə]
正：головой[gə' lɐ, voj]	誤：голово[gə' lɐ, vo] ¹

また子音ではなく、母音が聞き取れないこともあった。個人的見解となってしまうが、特に起きやすいのは以下のように日本語とやや異なる発音をする **о** と **ы**、そして特に **у** が誤解答の原因となっていることが多かった。

正：кому [kɐ' mu]	誤：кам[kæm]
正：уксус['uksɔs]	誤：уксос['uksɔs]
正：будь[butʲ]	誤：быть[bɪtʲ]

1 ここに限らず、正と誤で表記したものはすべて今年度のロシア語演習3における学生による誤答からの引用である。

(3) 軟音記号ьと母音и

語末ではないが、日本語の音節は原則、子音+母音で構成され、連続する子音や子音で終わる語を聞き取る際、日本語的に母音を補ってしまったという誤答もあった。

特に日本人にとって軟音記号ьと母音и[i]の問題が難解になってくる。ьは直前の子音にイの音色を加える記号であり、発音記号では[']で表記され、母音иとは区別される。ただ授業内のようにはっきりと発音されるロシア語と異なり、ナチュラルなロシア語で発音された軟音記号ьと母音иを日本人に聞き分けるのは困難であり、実際に пути['puti]を путь[put']と、стоять[stɐ'jat']を стояти[stɐ'jat'i]という誤解答が発生した。

(4) еとяの弱化

ロシア語の場合、無アクセント音節でのеとяは母音の弱化と呼ばれるあいまいな発音になる。またこの際еとяは、иと同じように[i]と発音される。そのため授業内でеとяを別物として認識している学生にとって「イ」と聞こえる音は聞き取りを難しくさせる大きな要因となっている。

正： посмотрим[pəs'motr'im] 誤： посмотрем[pəs'motr'em]

また以下のように常に硬子音で発音されるш、ж、ц、逆に常に軟子音で発音されるч、щが弱化したеとяと結びつく場合も聞き分けは困難となる。

正： Чебурашек[tɕɪbu'raʂik] 誤： Чебурашк[tɕɪbu'raʂk]

その他に形容詞の中性形と女性形の語尾-оеと-ая、あるいは-ееと-яяの場合、еとяは基本的には軟子音字のあとでは[ə]、母音の後では[jə]となるため、中性形と女性形の発音が一致してしまう。ただしこの弱化は常に起きうるものではなく、性を区別させるため、あるいは教科書の音声などはっきりとした発音をする場合は文字通りの発音になるため、初学者の授業では触れられない。初めてナチュラルなロシア語に触れた学生にとってはこちらもリスニングの障害となる。

正： оказанное[[v'kazənnəjə] 誤： оказанная[v'kazənnəjə]

正： высокое[vi'sokəjə] 誤： высокая[vi'sokəjə]

(5) 文法知識による誤解

(1)～(4)で取り上げた誤解答は学生が聞こえた音をそのまま解答したことが原因である。しかし中には文法知識が逆効果になって間違えたというケースも見受けられた。

例えば никакихの語尾-ихを-ыхと答えた学生がいたが、これは形容詞の格変化を硬変化のみ覚えているため間違えたと考えられる。

また по словам[po slɐ'vam] (前置詞 по+複数与格) の слово「単語」の正しい形を словом['slovəm]と解答したケースも見られた。本来であればアクセント位置が異なり、前置詞 поが造格を取ることもないため、格変化をしっかりと習得していれば間違えることはないが、名詞の複数格変化に慣れていなかったことがミスにつながったと考えられる。

他にも不規則な第1変化動詞 сказать[skɐ'zatʲ]は3人称単数形で скажет['skazɪt]と変化するが、正則で変化させてしまい、скажетと書いた学生がいた。

まとめ

ロシア語の発音には弱化や連続する子音などに特別な発音が発生し、文字と発音の不一致がおきうるが、こうした不一致について言及している初学者向けの教科書はほとんどなく、ロシア語学習者たちはそれを知らぬまま文法を重視した授業を受けてきた。文法知識が原因となった誤答タイプ(5)を除けば、演習3でおきた誤答の多くは、ロシア語の発音が文字通りに発音されることに学生たちが慣れすぎていたことが一因と考えられる。

だが一方で今回の結果から文法知識をしっかりとしていれば誤答を避けられたケースも多い。ロシア語の語形変化は複雑ではあるが、規則がしっかりしていないわけではない。規則に沿わない解答になった場合は、規則に合致する変化語尾になるようにチェックすればミスを回避可能であった。

例えば(1)の誤答の内、какомをкомとしてしまった誤答の場合、какойは形容詞的に変化する疑問代名詞なので、какоというように語尾がoひと文字になることはない。また(4)でのЧебурашекを誤ってЧебурашкとしてしまった誤答は、語形変化する際、子音が連続して終わると子音間に没母音oもしくはeが入ることを忘れてなければ正答できたであろう。

また個々の単語だけでは難しい場合でも文章全体を見ると、正答できたであろうケースが多い。例えば(4)で形容詞の中性形оказанноеを女性形оказаннаяとしてしまった誤答では、実際にはこの形容詞の後に中性名詞довериеが来ていた。そのことを意識していれば、女性形оказаннаяを選ぶことにはならなかったのであろう。

ロシア語は語形変化が多く、1年次では文法を重視せざるをえない。しかし学生が自信を持っている文法知識を「聞く力」のサポートとすればリスニング力にもなり、バランスよくロシア語力を伸ばすことができるのではないか。

ロシア語演習3の後半では徐々にだが単語ひとつひとつではなく、意味の塊として文章全体の構造を意識させることを心がけて指導しはじめた。これまで獲得した文法知識を取り込んだ形で聴解の授業を進めることで一層のリスニング能力を伸ばす学習となるのではないかと考えている。この授業は今年度が初めてであるためまだはつきりとは見えてこないが、今後授業を続けていくことによってさらに情報を増やし、聴解における日本人学習者が注意すべきポイントをさらに明らかにしていくことを今後の課題としたい。

参考文献

- ゴルボフスカヤ, リュボーフィ・安岡治子 (2016) 『基礎から学ぶロシア語発音』 研究社.
- Кабяк Н. В. (2002). Любимые советские фильмы на уроке РКИ : учебное пособие. (B2–C1). Флинта.
- 神山孝夫 (2004) 『日本語話者のためのロシア語発音入門』 大学教育出版.
- 神山孝夫 (2023) 『ロシア語音声概説〈新装版〉』 研究社.
- ロシア語教育研究会編 (2008) 『授業づくりのハンドブック ロシア語』 大阪大学出版会.
- 佐藤千登勢 (2009) 『映画に学ぶロシア語: 台詞のある風景』 東洋書店.
- 城田俊 (1988) 『ロシア語発音の基礎』 研究社.
- Викторов А. В., Викторова Л. А. (2004). Для тех, кто любит кино... Материалы к кинокурсу. Часть I, II. СПбГУ.
- 山田智子 (2023) 「ロシア語教育における母音と母音を含む文字に関する指導の諸問題」『ロシア語教育研究』第2号, 33–45.